

令和7年度の教育活動等における学校評価書

令和8年2月 26日

学校法人 麻機幼稚園 園長 高橋明人

学校法人 麻機幼稚園学校関係者評価委員会

- 1 教育目標 「健康で明るく元気な子」
合言葉 「元気いっぱい(あいさつ)」「やる気いっぱい(チャレンジ)」「笑顔いっぱい(返事)」
- 2 教育方針 自然に恵まれ、うるおいとゆとりある環境の中で、様々なものや事柄に興味関心をもち、大勢の人とかかわり合いながら、身体を精一杯動かしたり、遊びを工夫したりして、自分の考えをもち、自分で行動できる子を育てる。このような資質をもった次代を担う人づくりをめざす。
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 A:よくできている B:概ねできている C:余りできていない D:できていない

評価項目	評価	自己評価の視点、理由、改善点など	評価	学校関係者評価委員会意見
0 子どもの姿	A	<p>○「本園教育目標」「3つのいっぱい」への子どもの姿</p> <p>教育目標達成を評価する前に、最も大切にしたいのは「クラスの子どもは喜んで登園している」という項目である。職員の自己評価は「大変よくできている」と「おおむねできている」で100%を達成している。職員は全員、喜んで登園しているのとらえている。けれども、保護者の評価は、92%であり「あまりできていない」という回答が0.5%（全園児の約5人）いる。</p> <p>気になるのは、5人も喜んで登園していないこと。けれども幼稚園内での子どもの様子を職員は全員「できている」と評価している。</p> <p>本園教育目標は、「健康で明るく元気な子」であり、これは普遍的な目標である。そんな中、3つの合言葉については、毎年その意味を今いる子どもたちへの成長につなげた目標にしている。また、重点目標を「一人一人に応じた保育と教育」とし、個への対応を重点に合言葉の意味付けをしてきた。</p> <p>「元気いっぱい(あいさつ)」元気なあいさつを目標としながらも重点目標に沿い、子どもや発達段階に合わせて、質を上げていくことが大事だということで、大きく「あいさつができる」ということにした。</p>	A	<p>○園に入った時「おはようございます」と言った時には返事少なく心配だった。が、後で園内を回った時にはしっかり返事が返ってきたので、ホッと、やはり挨拶がしっかりできていた。</p> <p>○園庭で元気よく走り回っている園児を見ると喜んで通園していると感じられる。</p> <p>○外遊びでは、遊具での遊びだけでなく、グラウンドを駆け回る子もいて遊びに夢中になっている姿が見られた。</p> <p>○時間終了の合図により、遊具の片づけ、手洗い、うがい、自分の席に着くの流がどの子もスムーズにできている。</p> <p>○グラウンドであいさつしてくれた園児は少ないと感じたが子どもが夢中になって遊んでいれば無理もないと思う。</p> <p>○『クラスの子どもは喜んで登園している』という項目について、先生方の評価と保護者の評価に少し差が見られるが、子供が登園を嫌がる理由にはその子自身の気持ちの問題、例えば『お母さんや家から離れたくない』など様々な理由もあると思うので、必ずしも幼稚園に問題があるとは限らな</p>

達成度は7割と保護者にとって挨拶ができるかどうかの評価が一番と言ってもいいくらい厳しい。それは、保護者も職員もあいさつができることを重要なことだととらえているからだ。外部から園見学などに来てくださる方々からはほぼ全員の方があいさつができる子どもたちだとほめてくださる。

「やる気いっぱい(チャレンジ)」は、できていないと評価している保護者はいない。本園の教育活動は、運動会でも発表会でも課題があってそれを目指してがんばることがねらいになっている。そういう活動の中でできた喜びやがんばった満足感を得られる経験を重視している。その点、保護者としても自分の子どもがそういう姿を見せていることに評価してくださっていることはうれしいことである。どの活動をも基本的にやらない子はなく、個々活動している姿は確実に成長が見える。

「笑顔いっぱい(返事)」と設定した。前二つの合言葉と比べて、この合言葉については、意味合いも広くとらえているため、保護者のアンケートでは、「自分の気持ちを伝えることができるかどうか」を評価していただいた。「返事」については、自分の存在を示すという意味で、はっきりと返事のできる子の気持ちの安定感が高いとみている。返事をするということは、その子の名前を呼ぶ、存在を確認することで、その子が存在すること自体に大きな意味をおいているということを示す点で、「笑顔いっぱい」につながるのだととらえる。

評価としては、できていないと感じている保護者がいる反面、職員の達成率は100%である。これは、誕生会など名前を呼ばれる場がいろいろある中、返事することにどれだけ大きな意味をおいているかどうか保育者の指導が見える場面でもある。運動会の代表の子どもたちの姿を見ても、代表としての意識でとてもいい返事が返ってくるが、代表の言葉担当職員の言葉かけやできていない時にはできるように投げかけることが子どもの園児への良さを引き出していることに間違いはない。

このように目標達成の有無には、教職員の指導の有無にかかわることが非常に大きいことは確かである。

い。先生方の視点で子供達が園生活を楽しめているのであれば問題ない考える。幼稚園が嫌だという子にはそれに応じた対応が必要だと思う。

○『元気いっぱい(あいさつ)』については、朝の送迎や父母の会の仕事で園に来た際、必ず子供達が元気に寄ってきて挨拶やお話をしてくれる。それは先生方がいつも保護者に向けて大きな声で挨拶をしてくれたり、子供達にも『こんにちは?』と声がけをして下さっている事で、先生方の背中を見て学んでいるのだと感じる。

○『やる気いっぱい(チャレンジ)』については、運動会や発表会など、子供達はとてもいきいきとしていて、とても達成感のある表情でやりきっている姿を見ると、この為にみんなで一生懸命練習したんだなあと感心させられる。組体操やかけっこでくやしい表情をする子がいるのも、やる気いっぱい!の証だと思った。

○『笑顔いっぱい(返事)』について、誕生会や運動会などの代表の言葉で名前を呼ばれる場面で、とても大きな声で返事ができている子が多いと思う。そしてその後すぐに先生方が『大きな声で返事が出来たね』などと褒めている姿が印象に残っている。そういった積み重ねが子供達の自信になり、自分を表現できる事に繋がっているのだと思う。

○親と離れたくない子もいるかと思いますが、ほとんどの子が幼稚園に行くことを楽しみに登園できていると思う。園に行けば楽しいと感じる子がほとんどだと感じる。

○誰がきても進んで挨拶や話しかけてくれる子が多く朝から元気に体操をしたり楽しそうな様子がみられた。

○他学年の子でもみんなで仲良く遊ぶことができているし、クラス活動中も落ち着いて活動できていて担任の先生を信頼しているな感じた。

○普段の園生活で着替えなど自分でやれることはやるという意識ができていた。

○運動会、発表会はもちろん縄跳びなどできるように頑張っている様子がうかがえて、チャレンジすることが自然とできているなどと思った。

	<p>○今年度の重点「一人一人に応じた保育と教育」の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園は、一斉を主とした活動の中で、学級の皆が同じめあてを達成することを目的とした保育を進めている。主活動は技能的な習熟を目的とするものが多く、保育者や学年で決められた教材・手順ややり方によって、どの子どもも同じ技能の習得を目指した指導を行い、できるようにしていくことが目的だと言える。この点は本幼稚園の伝統的な保育教育のスタイルである。こういう教育のスタイルについての意見はあるものの、これを変えるということより、こういうスタイルで子どもをどう育てるのかという観点で毎年重点は考えてきた。 どんな教育スタイルであれ、そこで育てる子どもは個への理解を深め、その子に合った手立てをもってねらいを達成しなければならない。根底に「みんなちがってみんないい＝インクルーシブな保育」を目指すことをうたっている点で、「一人一人に応じた」という観点は当然の見方である。その点を重点に込め、「グランドデザイン」を作成、提示している。職員の自己評価については100%達成である。 さらに意味合いを深めると「みんなちがってみんないい」という以上に「みんなちがって当たり前」という観点である。 この重点で実際に個々に見合った教育や保育がどのように展開されているか、子どもの育ちを見ながら常に考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰と何をして、どんなことができたなど、進んで話をしてくれるので、周りからいろんな刺激をもらって成長できているなど感じた。 ○聞かれたことに対しての返事や反応ができている子どもが多く、先生の指示でお片付けをしたりして声掛けでしっかり動いているなど感じた ○先生方の子どもへの声掛けや接し方が子どもの安心感を生んでいる。園児のやってみようとする気持ちを大事にしているのだろうと感じた ○保護者から「やる気いっぱい（チャレンジ）」の評価が良いことは教師が常に園児に対して、常にやる気を起こさせている事の表れであると推測される。 ○子どもの行動に個人差があるのは仕方がないが、全体を見ながら遅れのある子を見捨てず間違いがあればやり直しをさせ、遅れのある子が終わってから次のステップに移って教育している姿が見られ、どの子どもも見捨てていない姿に感心した。
<p>I 保育の計画性</p>	<p>A</p> <p>○今年度の保育方針に基づいた保育の計画・実践・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育計画については、自己評価はどの項目をとっても100%達成している。ただ「大変よくできている」割合はもっとも高いのが6割とおおむねできているという点での達成率だ。 保護者アンケートでは、9割の達成率のものもあるが、もっとも気になるのは、2割の「わからない」という意見である。保護者アンケートにあえて入れてある項目なので、この内容が十分に伝わっていないことについては考えなければならない。 特に「興味関心をもたせる環境構成」「主体的に活動する環境づくり」では、できていないという評価をした方も数人いる。割合としては小さいが、保育や教育の在り方として大事な点であるので、本園の特徴的な保育の在り方を示していくことがまだ十分ではなく、さらなる工夫が必要かもしれない。今年度実施した保 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月の行動目標を保護者も何時でも見える入り口に掲げているのは常に教職員と保護者で共有できるので良いことだと思う。 ○掲示物をきれいに張り出して、園児の個性を引き出そうとしている所からも興味関心を持つ環境づくりにしていることがわかったが、数人ができていないと思う原因を探す必要があると思う。 ○教室内の掲示物が季節を感じるものや学校行事に即したものになっていた。園児の絵もそれぞれの発達段階に応じて作られているものと感じた。 ○多様化の時代、園児一人一人のニーズに合わせた対応は難しいと思うが、保護者にどのように発信していくことが効果的なのか、また理解していただくかは園児の姿で示していくことが大切にあると思う。 ○入園から年少、年中、年長と確実に子供達のできる事が増え、運動会や発表会でのクオリティや表現で成長を沢山感じる事ができているのも、園での保育

		<p>育参観によりこの点への見方がどうであったか。アンケートを出した後の評価をうかがうことができていないので、保育参観の有無にかかわらず、保育教育の実践や意図を提示していく必要があるだろう。アンケートの中では、普段の保育の様子を見ることができる保育参観の設定を楽しみにしている保護者もあり、実施前のアンケートにも複数の期待ある意見をいただいている。</p> <p>保育参観については、実施回数、日時、方法と今後さらに理解を深めるために改善していく価値が十分にあり、本園の大きな特徴にもなりうる行事だととらえている。</p>	<p>計画がしっかり出来ているからこそその結果だと感じている。正直、もっと普段の園での生活やお友達と遊んでいる姿も見たいなあと思っていたので、今回の保育参観、とても嬉しかった。他の保護者からもよくそういった声を聞くので、園の負担にならない程度で、こういった行事も増やしていけると、保護者の『わからない』が減っていくのではないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グランドデザインをもとに計画性をもって保育活動ができていると思う。 ○イベント事に、ちなんだ行事や工作など園児が興味関心をもてる遊びができていると思う。 ○通常の保育参観の日が何日かあれば参観できる保護者も増えて、子どもと先生の普段の様子や活動への理解を深めることができると感じた。
<p>II 保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>○健康と安全への配慮</p> <p>教育活動の優先順位は、1位は「安全」2位は「人権」3位が「教育効果」である。この評価項目では、まず「できていて当たり前」なこと、次に「できたほうがいいこと」、そして「できていればすばらしいこと」に分けて考えると、「できて当たり前なこと」は100%でなくてはならない。各職員は、その点の意識をきちんともって保育をしている。（この文章は評価の基本となるので毎年提示している）</p> <p>「保育の在り方と幼児への対応」についての自己評価は、全13項目あるが、園項目達成率100%である。そのうち4項目に至っては、全職員が「大変よくできている」と自己評価をしている。</p> <p>保護者では「一人一人に応じた保育教育をしている」項目での「わからない」という回答が35%近くもあり、今年度の重点としてあげられていることについて、その実践を十分に伝えきることができなかったことは心残りである。</p> <p>前年度高い評価を得た時に実施したのは、「バスの安全装置」を真っ先に入れたことへの理解が高かった。このような目に見える対応については、数字的にも高い評価が得られるが、実際に目に見えないことへの改善点もあるため、やはり保護者にとって安心を届けるためにも、どう伝えていくかが大事なことになるのだろう。その点、今回のアンケートでは、意見記入欄も設け、12月の危機管理説明会でも意</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎回来園の都度拝見させていただいているが、昨年度以上に整理、整頓がされ遊戯室の裏側までゴミ等も落ちておらず安全性が保たれている様に思う。この状態を維持するのは大変だが習慣にすることが大切だと思う。また、ヒヤリハットの収集は安全対策に非常に重要だと思う。 ○バスの安全装置は近年では注目されることだが、一番はやはり人が確認し、確認し合うコミュニケーションが大事だと思う。 ○帰宅時の通園バスの中を見る機会があるが、どのバスの園児たちがしっかり座席に座っており、それを見守っている教師も安全に気を付けている様子が外から見てわかった。 ○3歳児クラスでは、3人の職員で場面ごと場所ごと園児に対応していた。 ○年少では、2人の職員が一人一人の動きを丁寧に観察して、必要な言葉かけをしたり、手を差し伸べたりしていた。 ○年中、年長では園児が一人でできるためにやる手順について話をし、見通しをもって活動できるようにしていた。 ○学年の成長に合わせた対応ができていると感じた。 ○バスの園児置き去り事件後、速やかにバスアプリや安全装置の導入をされていて感心しました。

見を求めたので、子どもの管理体制などについていただいた意見をいかしていきたい。

○幼児の見取りと理解を指導にいかす

「全職員で全園児を保育する」という意識は全体的に高い。担任だけでなく、いろいろな場で多くの職員と子どもたちは関わっている。子どものみならず、保護者の方々ともバスや送り迎えなどを通してコミュニケーションを図っていることは、今年も言えることだろう。昨年からの理事長も教育現場の出身として、園児たちにかかわることも多く、特に未就園児の企画では必ず参加するとともに、保護者とも密接なコミュニケーションをとっている。これらの表れは、保護者の評価以上に、子どもとのかかわりによる表れが顕著であり、子どもにとってもその先生が身近な存在だと感じている部分は大きい。それと同じように、どの保護者も担任に限らず、いろいろなことを相談するなどのかかわりがもてるような園でありたい。

時間外保育でも、担当は別れの挨拶をするとともに子どもの表れや保護者の相談などに対応していることもあり、今後の関係性の深まりは大いに期待できる。保護者意見欄には、「ちょっとしたことでも、普段の様子を伝えてほしい」という意見が複数見られるが、担任としてどう対応していくか考え実践していけば、さらに大きな関係性づくりができると思い、大変大きな期待をしている。

- 欠席連絡を忘れた際、『今日お休みですか?』と確認の連絡をくれる。
- ホームページに園の欠席状況、何の病気が流行しているのか公表、バステルでも配信してくれる事で、把握、予防する事ができる。
- 先生方がクラス関係なく子供の名前を覚えて下さっている事で、安全面でも、人権の面でも安心できる。
- クラスごとに当番や、班のリーダーなど、役割を与える事で、責任感や自分が必要とされていると実感できる。
- 先生が子供達に説明する際に、子供目線で分かりやすく。例えば曲名を伝えるだけでなく、実際に歌って見せたり踊って見せたりしていた。
- ただ『落として無くさないように』ではなく『先生も大好きだから落ちてたらもらっちゃうよ〜』など子供に合わせた会話。子供に寄り添っていると感じた。
- 年少から自分で着替えたり、制服をハンガーにかける練習をしている。ひよこ組でも、自分で頑張ってる着替えをしていて、『自分でできることは自分でやる』が身についている。できない子を放置したりせず、声をかけ、手を差し伸べている。
- 年少から今日の日付、天気を読み上げている。
- 教室に季節を意識した工作や飾り付けがしてある。
- バスや水筒の事故があった際に園としてどのように対策するかの対応が早くできていた。
- 園児ひとりひとり名前を読んでから挨拶をするなど誰に対して話しかけているのか明確にしてい、ひよこ〜年長それぞれの学年にあった声かけができていた。
- 送迎の際にケガなどのこともあるが、普段の何気ない遊びの様子など子供のいいところを見つけて伝えてくれるのがうれしいと感じた。

<p>Ⅲ 専門家としての能力・良識マナー</p>	<p>A</p>	<p>○教職員・組織で働く社会人としての意識と行動を振り返る</p> <p>前半は、教職員としての意識や振る舞いにかかわる内容、後半は教職員に限らず、組織の中で働く社会人として身に付いてほしい内容である。全24項目とたくさんの項目があり、毎年同じ内容ではあるが、年1度は総点検の意味を込めて実施することが大事だろう。</p> <p>また、この項目は個人としての評価だけでなく、そこで働く現場の雰囲気などにも関わる評価ではないかを感じる。個々の意識の高さ（方針に基づいた建設的な意見、ポジティブな発想、個々を尊重し個の意見をいかす言動、前向きな発想と行動等）が全体の中でも十分に発揮され、よい雰囲気を作っている職場でありたい。自己評価の中では「自分の役割は最後まで確実にやっている」項目は全員「大変よくできていると」自己評価している。その分「職場内での互いに高め合う意識や職場内での人材育成」にかかわる評価は「大変よく」「おおむね」ともに4割、「できていない」2割と自己評価の中ではもっともといっていっくらいに低い数値である。ただ、職員個々の個性や仕事に対する意識を豊かにもっていることも考えられるので、そういう良さが前面に出せる雰囲気づくりを考える価値は十分にあり、期待感も高い。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○先生方は専門的などとして勉強していらっしゃると思う。その中で、公平さ、挨拶、感謝に配慮されているとアンケート結果からも読み取れる。その3点に重点を置いた行動があれば十分だと思う。 ○働きやすい職場環境・人間関係づくりは教育現場として大切なのでさらなる努力が必要。 ○職場内でのお互いを高め合う意識や人材育成に関わる評価が大変よくとおおむねで8割あることがよく、期待がもてる。 ○朝活動で園児が元気よく遊んでいる。遊具だけでなく、道具を出して遊んでいる園児もいた。子ども同士で約束事が守られているようで安全に遊んでいる印象だった。 ○片付けの声に園児が一斉に動いたのを見て指導が行き届いていると感じた。また、それぞれの職員が必要な配置についていたので、職員間の連携がとれていると感じた。 ○あさはた幼稚園の先生方は皆さんとても元気に挨拶してくれて、明るく、とても雰囲気が良い印象。いい意味で堅苦しくなく、どの先生も話しやすい。先生同士もよく話をしていて、仲の良い印象で、子供達についての情報交換もしやすい関係だろうと感じる。 先生方にとって過ごしやすい雰囲気が子供達にとっても、良い影響を与えていると思う。 ○クラスで安全に活動ができるよう、教室は整理整頓されていた。 ○先生同士で声掛けができているし、クラス内のみならず園の雰囲気はよいと感じる。 ○この評価に関係ないかもしれませんが、父母の会で集金したお金の保管場所について先生と事務の方と情報共有がもう少しできているといいなと思った。
------------------------------	----------	---	----------	---

<p>IV 保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>保護者は職員とコミュニケーションがしやすい環境になっていることを毎年感じる。担任という立場のみならず、バスの乗務など、いろいろな職員とかかわる場がある。幼稚園の良さとしては、保護者と担任が閉鎖的な関係ではなく、担任以外にも対応してもらえるという期待感があることがとても大事だ。そういう意味では、理事長のかかわりも大きな効果があるし、園長としてはさらに、担任とは違った見方で子どもと保護者を見ていくことの大切さを実感している。</p> <p>保護者にとっての関心事は「子どもの成長」だととらえ、「子どもの良さを捉え、今どんな成長をしているのか、具体的活動の場面を踏まえて伝えることができるかを考えてかかわりたい。</p> <p>担任としては、全職員がけがや病気のことを迅速に伝えていてと評価しているが、危機管理について真っ先にできていると評価できることは素晴らしいことである。「子どもの様子や保育のねらいなどタイムリーな情報をわかりやすく」の点では十分できていないと評価する職員もいるが、9割ができていることを高く評価したい。さらに、伝える内容が、担任側の都合ではなく、保護者の側に立った話題になることと気になる子ばかりではなく、成長している子へのアプローチも含めて伝えることができる職員でありたい。こういう意識は必ず保護者に伝わる。保護者にとって子どもの成長を感じることは大きな教育効果になる。職員一人一人にも個性があるので、その良さを生かす上で、必ずしもベテランの対応がいいわけではなく、自分なりに子どものために何ができるかを考えて、積極的に実行できるような風土を築き上げることが大切だろう。</p> <p>保護者アンケートではまだまだ十分な対応になっていないという方もいるが、評価は行うことが目的ではなく、それをそう改善していくことが目的なので、真摯に受け止めたい。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間の制約がある中で保護者と希望面談を行ったりしてかわりを大切にされていることが分かった。園児、一人一人をよく見て、個性を伸ばすことに配慮されていて良いと思う。 ○保護者アンケート結果より、職員が保護者に丁寧な対応をしていることがわかる。また、職員のアンケートより職員が保護者の話をしっかり受け止め、親身になっていることがわかる。日頃からの積み重ねが、よりよい関係を築いていると感じた。 ○バス通園か送迎かによっても違ってくると思いますが、迎えに行った際、毎日違った先生と関わられることによって、『知らない先生』があまり居ないので、確認したい事や相談に乗ってもらいたい事などが話しやすい環境であると思う。担任の先生以外とも子供達が関わる事で、園全体で子供の様子を把握して下さっている安心感もあり、『最近〇〇くん〇〇ですよー』などと担任以外の先生からも声を掛けて下さるのも嬉しく思う。 ○保護者に対しても親しみやすく挨拶をしてくれているし、話しかけやすい雰囲気を作ってくれていると思う。 ○園児がケガなどをした時にはその時の状況などをわかる範囲で別の先生からでも保護者に伝えることができていると思った。 ○保護者からの相談、要望などは解決のために動きパステルなどを通して伝えることができていると思う。
-----------------------	----------	--	--

<p>V 地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>C</p>	<p>○地域を活用しタイムリーで貴重な経験ができる保育</p> <p>今年の夏も暑さでなかなか園外に出られることもなかったが、計画的なものだけでなく、気候や自然をタイムリーに感じての園外保育を実施した。緑地公園などの活用意識はとても高い。</p> <p>毎年行っている地域活用の大きな行事である「田んぼでの泥んこ遊び」「地域を巡る親子ウォークラリー・みかん狩り（虫被害）」は計画の段階でやめることにした。これらの中止については保護者の意見もあり、この園の特色が失われているという見方にもつながる感想だった。今までやってきただけに、中止の理由はあるにせよ保護者としては納得のいくものではないだろう。</p> <p>畑で採ったじゃがいもにしても、カレー作りにつなげる活動を計画しなかった。ルーの提供がなくなったわけではなく、どこの園も調理実習は行われていることもある。なぜやらないのかも説明が不十分だった。職員の手が足りないのなら、保護者の意見にあるように保護者の手を借りて実施することも十分にできる。</p> <p>今までやっていて保護者にとっても有意義とされた活動がこちらの都合でなくなっているという見方があるのだろう。できるようにするのはどうすればいいかという視点で見直していくようにしたい。最終的に決定を下した園長の責任は大きいと考えている。</p> <p>地域や社会との関わりを意図的につくったり、昨年度からも出ているこの地域の良さ（歴史や文化）を意図的に子どもたちに伝えていたりすることは、今年も十分できなかつた。地域の歴史や文化を子どもに興味関心につなげる手立ては何か。</p> <p>自然との関わりでは、用務員の方で今年度入園式からきれいな花がたくさん咲いた。アサガオの栽培では、年長が水かけをしたり、色水を作ったり、採れた種を育てたいという子も出たりして、植物への興味関心が高まったという意見もある。花を育てていることだけでも、その過程を目にしている子どもや保護者、地域の人がいることは大きな反応として受け止めている。</p> <p>また、少しでも花があると、年長は図鑑をもって虫がいるか調べることもあった。花摘みにもたくさんの子どもの子どもがかかわってきて、ブーケにしたり袋に入れて家に持ち帰ったりした。家に持ち帰った家庭では、それを花瓶にいけたり、押し花にしたりするという話を聞き、写</p>	<p>B</p> <p>○常日頃から麻機の地域性を生かし、自然の中で教育をされているように感じられる。今年は異常気象で真夏日も多く園外活動ができないことで評価が下がったかなと思うが、園児の安全が一番なので、それは仕方のないことで、季節に合わせた教育をすればよいと思う。</p> <p>○体験活動が年間通してたくさん計画されている。五感で感じる体験である。園児が様々な大人と触れ合うことや好奇心にもつながると感じる。地域との連携を密にとることは、園児の成長にもプラスになると考える。アンケート結果を見るとまだまだやれることがあると考えられた。</p> <p>○普段から麻機ならではの自然を活かして、沢山公園に連れて行って下さったり、季節を肌で感じられる様々な体験をさせていただき、とてもありがたいと思う。</p> <p>今年度からカレー作り、泥んこ遊び、みかん狩りなど、親子共々楽しみにしていた行事がなくなってしまい、正直とても残念で、納得のいかない保護者の声も、いくつか聞く事があった。</p> <p>しかし、今回の評価委員会で、直接園長先生から中止した理由を聞くと、私自身、納得できたもの、中止しなくても今後保護者の協力があれば実施する事も可能では？と思うものがあつた。実際、父母の会第3回役員会で、一年の振り返り、反省をした際、一部のクラス役員さんから『クラス役員の仕事が少ない。もっと手伝える事があれば』等の声もいただいているので、職員の手が足りない等の理由で中止された行事については、保護者のお手伝いを募集するなどしても良いのではないかと考えた。</p> <p>中止にせざるを得ない行事に関しては、できない理由をもう少し明確に、保護者にも分かりやすいように説明する必要があると感じた。</p> <p>○自然を活かした体験が沢山できる事も、あさはた幼稚園ならではの強みだと思うので、地域や保護者ともうまく協力しながら出来るだけ残していけたらと感じた。</p> <p>○公園などの園外保育で自然を感じられる場所へ行ったり園の中でも植物や生き物と触れ合えることができていると思う。</p>
-----------------------------	----------	--	---

		<p>真を見せてくれたり話題にしたりした方も何人かいた。</p> <p>自然や地域とのつながりは園の活動と家庭を結ぶ大変よいきっかけになることを実感した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○泥遊びや雪遊び、ポニー、汽車など園内で体験できることが多く、YouTuber やサッカー教室など外部の方と関わり、学び、体験できる場があってよかった。 ○例年行っている行事がいろんな事情で、できなくなってしまったことがいくつかあったのが残念だったが、保護者にも園のHP やパステルの配信などで中止などの理由を事前に明確に説明してもらえると保護者も納得する人が増えるのではないかと感じた。 ○昨年からクラス役員の仕事が減ったため集まる回数を減らすことができたが、同時にもう少し何かお手伝いしてもよかったという意見もあったため、職員不足の点はクラス役員に協力してもらうことも検討してもよいかと思った。 ○自然との関わりで植物に興味を持ち幼いうちからなんでも調べる癖付けは大変良いと思う。
<p>VI 研修</p>	<p>D</p>	<p>○<u>自己課題を全体で解決する研修体制づくり</u></p> <p>園内研修は、「危機管理研修（地震対応）」を2回行った。夏に行われた研修に全員で参加したのは、県単位の「特別支援教育研修」である。そのほかの研修報告については、毎月行われる職員会議の中で研修報告書をもとに行われている。</p> <p>各学年の保育計画や行事等での実施計画などでは、遊びの環境やどんな遊びを展開するかの話し合いは行われている。保育や教育の計画や振り返りは、それぞれは今までのキャリアや学年の話の中でその都度どんなふう遊ぶかを決めている。</p> <p>地区幼稚園協会全体が共通して取り組んでいる研修テーマで「ままごと遊び」への研修については、研修主任が地区の研修に出かける際持参する実践文書については、各学年学級により作成し、研修主任からリーダー研で発表することができた。</p> <p>夏の研修を中心に、研修参加への報告書を研修での話題にした。その報告書をもとに、9月の職員会議ではそれぞれの研修内容を発表した。研修報告書をまとめていく中、それぞれが受け止めた研修のポイントを自分なりに記述した豊かな報告書づくりができた。</p> <p>同じ研修に出ている、各職員の課題意識や受け止め方がそれぞれ違い、個々の捉えを出し合う効果的な発表になった。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先生の仕事内容も多くなっている中で工夫をされ、毎月報告会が行われていることは、情報の共有ができて、頑張っていると思う。 ○園児の個性を伸ばす上で、選択肢が多い方が良いのだが、先生の負担とバランスを取りながら実施すると良いと思う。 ○「教育活動の第1は「安全」である」の言葉の通り、危機管理研修を2回実施している。職員が園児の命を守るための行動ができるように研修を積むことはとても大切だと感じた。また、園児も自分の命を守るための行動を覚えるように訓練を実施することが必要になる。 ○教員として資質向上を図るために、様々な研修会があることが分かった。研修で得たことを共有し、子ども指導に当たっていることがうかがえる。 ○静岡市は南海トラフの問題があるため、先生方が危機管理研修を受けているのは心強く、子供を預けている身として安心できる。 ○遊びは子供の成長に様々な影響を与えと思うが、家庭ではなかなかそこまで考える事がないので、園で研修を受けて専門知識を身につけて、保育や教育の場に活かしていただけるのはとても助かる。 ○今は、発達や特性についての捉え方が昔とかなり変

○特別支援教育への理解と具体的な実践

特別支援教育への重要性はありながらも、巡回のカウンセラーが変わったことで、時間的にもカウンセラーとの面談や協議に職員は関わることができなくなった。園長と理事長との協議でその内容を担任に伝えている。

今回のカウンセラー巡回訪問では、各担任が気になる子どもへの見取りや対応について、カウンセラーに見てほしいポイントを文書で伝え提示した。各担任は子どもへの対応についての意識はあり、カウンセラーとの協議内容をまとめて職員全員に伝えることができた。

大事なことは、子どもはどの子もいろいろな特性をもった子がいて、すべての子に対する適切で効果的な保育していくことが保育者として必要な力量だということはどの職員も認識していると思う。

夏季研修での特別支援教育研修は今回も全員で参加した。その報告も9月の職員会議ですることができた。研修の募集があるたびに毎回掲示しているが、今年はそういう中から自分なりに受けた研修に目を向け参加する職員もいた。研修報告も、参加職員ならではの捉えでまとめているため、その活かし方も考えていきたい。

「研修」は教職員にとって、「権利」と「義務」である。自己評価としては、どれも高い評価になっている。月の振り返りの中では、例えば運動会への取り組ませ方について、悩みながらやってきたことを記入している職員もいる。学年全体で取り組みながら学んでいることは考えられるが、それぞれが学びの意欲があっても、全体としてどう遊びを高めていくかについて、学び合う体制づくりが必要だと感じる。まずは園長自身が出た研修内容について、まとめて提示することにより、その内容を自分の力にしてもらおうとしてきた。

夏季研修の個々のまとめも価値を見出し発表してもらったが、やはり研修することが目的だけではなく、むしろその研修での学びを保育や教育の中でどう活かしていくかが目的。その成果は確実に取り組みとして、自分の保育教育に出てくるものだと思う。まだまだ積み上げていかなければならない段階なのだろうが、研修参加への園全体のバックアップやモチベーションを高めることで意識向上の期待は高い。

わって来たと感じる。それに伴い、先生方の対応も難しい事と思う。専門家やカウンセラーと上手く連携して様々な特性を持った子も、少しでも生活しやすい環境を作って頂けたらと思う。

- 安心して子どもを預けられるように園の安全性や子どもの個性を考えられる研修を行ってほしいなと感じた。
- 研修内容の報告を職員で共有することにより、研修内容をより理解して取り組むことができていると思う。
- 研修意欲をもって保育に生かしているという自己評価が今後高くなっていったらいいと思う。
- 支援の必要な子どもが増加傾向にある。子どもの特性を理解し、指導に当たることは必要な力量になる。また、外部機関との連携や小学校とのつながりなど情報を共有していきたい。
- 特別支援教育についてカウンセラーが変わったことでかかわりができなくなったのは残念だが、職員の園児に対する対応があるのであれば今後、協議内容を共有化できればいいのではないか。
- 夏季研修での特別支援教育が今回も全員参加できたことは有意義であったと思う。

4 今後取り組むべき課題

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」達成に向けた子どもの見取りと評価

幼稚園は「教育機関」である。私立幼稚園としての特色はあっても、幼稚園である以上、「幼稚園教育要領」に沿って子どもに力をつけなければならない。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」がその具体的なものになる。とはいえ、その基準も「達成目標」ではないといわれているが、次の2点での子どもの成長を捉えていくような保育と教育をしていかなければならないと感じる。

①「10の姿」は個々にどのような具体的な姿をめざして目標にするのか。個に合わせて目標を設定することができる。

②同じ発達段階の子どもでの比較（相対評価）をするのではなく、あくまで「絶対評価」として、どこまでの達成度とその達成に至るまでの成長の過程を見届けることができるか。適切な目標に向けて、その過程を大切に捉えることができる。

ただ保護者アンケートとしては、比較的抽象的な評価観点を保護者としてどう捉え、評価していくのかはさまざまである。

成果として子どもに育っているという項目は、

○生活習慣が身についた ○決まりやルールを守る ○自然に興味関心がある ○いろいろな運動が好き ○歌や楽器に興味がある

○進んで体を動かす の6点に高い評価（達成率90%以上）をいただいている。

ただ、気を付けたいのは「自然に興味関心がある」以外は、すべて「ほとんどついていない」と評価されている子どもがいることだ。本園のような一斉教育でできることを目指す主活動を行う保育教育において、幼稚園の段階で興味関心を失う教育をしているのなら、大きな課題である。また、本園の大きな特徴である「体を動かす項目」については、100%の達成率でありたい。

課題として達成率が低い（80%以下）項目は、

△相手のことを考えて行動する △遊びや生活での工夫改善 △数量・図形・文字への関心 △お話や本に親しむ の4点である。

この課題について、前提として考えられることは、①どのくらい時間をかけて行っているか ②この項目についてどんな取り組みをしているか。

③行っている保育教育についてどのくらいの教材研究なり力量があるか。という①意識 ②実践 ③力量の3つが話題にされてきたかということだ。

「相手のことを考えて行動する」は、まず子どもたちにかかわりをもたせるための実践は日ごろから行われている。集団の遊びや園外保育を活用したペア活動、時間外保育のオレンジなど、園生活は異年齢も含めてかかわりなしでは成り立たない。となると、この課題はきっと達成されることはなく、常に相手のことを考えて行動とはどういう姿なのかを追求していく課題なのだろう。発達に応じて常に振り返られるねらいではないかと考える。

「遊びや生活の工夫」については、本園のように先生が子どもたちに一斉に投げかけ、提示、指示によってどの子も同じように動くことが主活動になっている保育と教育の中では、この課題はなかなか解決できにくいのではないかと考える。子どもが主体的に活動してこそその表れであったり、遊びを工

夫させるためには、子どもの思考や発達に沿ったさまざまな環境設定や準備がなされた上での表れであったりする。ただ、自由遊びや一斉の中にもこの項目への評価ができる状況を作っている場合もあるので、今後のいい視点になるだろう。子どもが主体的に遊びを作り、それを発展させながらいろいろな遊びを展開していることについて考えを巡らせる研修を実施していくことで達成に向けた可能性は高い。そういう中で75%もの達成率になるということをどのように考えていくか、これは保育の質にかかわることでとても大切なことである。

子どもたち全体の活動の姿は、どの子どもも必ず自分なりの動きをしている。興味関心を抱く以前に、活動に目を向け、参加しようとする意識はかなり高い。そういう点で、「まずやってみる」という意識はどの子どもにもあるので、どう投げかけ、どう展開していくのかを教師なりに考え、実践していくことでさらに豊かな成長への可能性は高いだろう。

「数量・図形・文字に関心」は達成率が最も低い項目の一つ（75%）であり、なおかつ「ほとんどついていない」割合が1割はいかないが一番高い項目である。これについては、幼児教育の段階で保護者が何を求めているか、その内容によって視点が異なってくる。つまり、小学校の先取り教育への要望を踏まえて、幼稚園の段階から「国語」「算数」の学習に踏み入れることを期待しているのであるのなら、それはすでに方向性が違うしそういう教育は行っていない。この評価は決して先取り教育への期待から出るものでないことは十分にわかるが、幼稚園で行ってる教育がこれからどんな力に通じるのかを保護者にわかってもらうことも大切な役目だと考える。

子どもが個々に来たら自分で遊びを見つけ、時間の許す限りその遊びを継続させていくことができる環境にあるのは、「時間外預かり保育オレンジ学級」の取組である。もちろん来るか来ないかも限定できないし、どのくらいの時間かけて、どんな遊びをしていくのかなど様々なことが決まっているわけではないので、継続といっても1日限りの場合もありうる。また、あくまでも預かり保育を希望する子どもにだけ提供できる教育の場ではあるが、「遊びの工夫 発展」や「数量などの関心」の点では、多くの実践事例と子どもの成長の姿を見ることができる。担当は常に帰り際にその出来事などを保護者に伝える意識を高くもっているので、いい評価が出るのではないかと予想する。あくまで一つの例としてのオレンジ学級の実態だが、普通学級内でも数多くの実践や事例があると考えられる。保護者アンケートだけではなく、そういう実践を持ち寄ることも価値ある園内研修の一つであることから、評価をするという保育と教育の改善手立て以上に、定期的な全教職員での研修体制をつくっていけば、日ごろからの保育教育改善に向けて常に行われているということになる。その点を踏まえて、来年度に向けて研修計画を一から見直していこうと考えている。